

CASBEE®新潟 | 評価結果 |



- 使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアル、CASBEE-新築(簡易版)2010年版
CASBEE-新築(簡易版)2010年追補版(BEI対応)
- 使用評価ソフト: CASBEE新潟(v.2.1)

1. 建物概要

建物名称 建設地 用途地域 建物用途 竣工年 敷地面積 建築面積 延床面積 階数 構造 評価の段階 評価の実施日	新潟青陵学園 大学・短大棟 中央区 水道町1-5939-27 指定なし、市街化調整区域、風致地区 学校, 2017年3月 竣工 35,216.99 m ² 2,814.58 m ² 8,996.32 m ² 地上4F S造 実施設計段階評価 2015年11月25日	
---	--	--

2. CASBEE新潟の評価結果

	A	$BEE = \frac{Q \text{ 建築物の環境品質}}{L \text{ 建築物の環境負荷低減性}} = \frac{61.4}{29.8} = 2.0$
S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B: ★★★★★ C: ★		

3. 新潟市の重点項目の評価

重点項目	平均スコア	評価	項目	スコア
1. 長寿命化の取組み 誰もがずっと安心して生活するために	3.3		バリアフリー	3.0
			維持管理	4.0
			更新性	3.0
2. 地震への取組み かけがえのない人命、財産、思い出を守るために	3.5		耐震・免震	3.8
			信頼性	3.2
3. 大雨への取組み 大雨につよいまちづくりのために	4.0		雨水排水負荷低減	4.0
4. 自然エネルギー利用の取組み 地球温暖化対策のために	3.8		建物の熱負荷抑制	4.0
			自然エネルギー利用	3.5
5. 資源循環の取組み 持続可能な循環型社会づくりのために	4.0		節水	4.0
			リサイクル材の使用	3.0
			再利用可能性向上	5.0
6. 水と緑を活かす取組み 豊かな田園空間を次世代に引き継ぐために	4.0		生物環境の保全・創出	4.0
			敷地内温熱環境の向上	4.0
7. 新潟のまちなみへの取組み 地域の魅力を伝承・創造していくために	3.5		まちなみ・景観への配慮	4.0
			地域性への配慮、快適性の向上	3.0

4. 新潟市の重点項目の配慮事項

- 新潟市の重点項目に関する配慮事項を記載してください。
- 長寿命化への取組み 極力段差をなくした計画とし、維持管理のしやすい建材を利用。
 - 地震への取組み 耐震計算ルート3の必要保有水平耐力の1.25倍以上を確保。
 - 大雨への取組み 敷地の雨水浸透能力を調査の上適切な雨水浸透施設を計画。
 - 自然エネルギー利用の取組み コンクリート底を設けて日射遮蔽性能を高める。
 - 資源循環の取組 地下躯体に高炉セメントを利用。
 - 水と緑を活かす取組み 既存の樹木を極力残し調和する計画とした。
 - 新潟のまちなみへの取組み 松林と調和するように計画した。既存の樹木を積極的に残すことで街並みに調和する計画とした。

CASBEE®新潟

■使用評価マニュアル: CASBEE新潟マニュアル、CASBEE-新築(簡易版)2010年版 | 使用評価ソフト: CASBEE新潟(v.2.1)
CASBEE-新築(簡易版)2010年追補版(BEI対応)

評価結果内訳

1-1 建物概要		1-2 外観	
建物名称	新潟青陵学園 大学・短大棟	階数	地上4F
建設地	新潟県新潟市中央区	構造	S造
用途地域	指定なし、市街化調整区域、風致地区	平均居住人員	800人
気候区分	地域区分IV	年間使用時間	1,700時間/年
建物用途	学校	評価の段階	実施設計段階評価
竣工年	2017年3月 竣工	評価の実施日	2015年11月25日
敷地面積	35,217 m ²	作成者	栗間 敬之
建築面積	2,815 m ²	確認日	2015年11月26日
延床面積	8,996 m ²	確認者	土井原 泉



2-1 建築物の環境効率(BEEランク&チャート)

BEE = 2.0 ★★★★★☆

S: ★★★★★ A: ★★★★★ B+: ★★★★★ B-: ★★★★★ C: ★

2-2 ライフサイクルCO₂(温暖化影響チャート)

標準計算

①参照値 100%
②建築物の取組み 31%
③上記+②以外の 31%
④上記+ 31%

2-3 大項目の評価(レーダーチャート)

2-4 中項目の評価(バーチャート)

Q のスコア = 3.4

Q1 室内環境

Q1のスコア = 3.2

Q2 サービス性能

Q2のスコア = 3.3

Q3 室外環境(敷地内)

Q3のスコア = 3.8

LR のスコア = 3.8

LR1 エネルギー

LR1のスコア = 3.9

LR2 資源・マテリアル

LR2のスコア = 3.3

LR3 敷地外環境

LR3のスコア = 4.0

3 設計上の配慮事項		
総合 既存校舎の老朽化に伴い、学園の新たな顔となる魅力ある施設を目指す創立115周年記念事業。生徒が長時間校舎に滞在し、自発的に学習することを目的としている。1F2Fの大部分を図書館とラーニングコモンズとして、学生が学習している姿を積極的に見せる工夫をしている。また、既存樹木を可能な限り残すことで周辺の風景と調和するように配慮している。		その他 注) 上記の6つのカテゴリー以外に、建設工事における廃棄物削減・リサイクル、歴史的建造物の保存など、建物自体の環境性能としてCASBEEで評価し難い環境配慮の取組みがあれば、ここに記載してください。
Q1 室内環境 生徒が長時間滞在する教室は四周外壁に面するように配置し、光と風が入る学習環境とした。建物中央が暗くならないように屋上にハイサイドライトを設け居心地の良い空間を目指した。	Q2 サービス性能 内装材はメンテナンスのしやすい素材を採用し耐久性の高い空間とした。可動間仕切りを設けることで、様々な学習環境に対応できるように配慮した。塩害地域であることを踏まえ、特に外部の防錆にはメッキ処理を施すなど	Q3 室外環境(敷地内) 桜を主とした既存樹木を積極的に残すことで、周辺敷地とも調和するように配慮するとともに、新植では既存移植することで自生種の保全に配慮した外構計画としている。
LR1 エネルギー 各方位で適切な時間帯に日射を遮蔽する位置に外装にアルミルーバーを設けることで、眺望をできるだけ確保しながらも日射遮蔽する外装ルーバーとした。全面的にペアガラスを採用し、内断熱を施しました。また、1F2FのカーテンウォールにはLowEガラスを採用している。	LR2 資源・マテリアル デッキテラスの人工木は再生木利用品としました。衛生器具は節水型、照明はLEDを採用するなど、省資源な設備機器選定としました。断熱材もフロン、代替フロンを用いないこととし環境に配慮しました。	LR3 敷地外環境 敷地境界から3m以上壁面後退し、周辺にたいする圧迫感の軽減を目指しました。敷地の雨水浸透能力を調査の上、過去10分間最大降雨量を1時間換算した雨水を適切に浸透する雨水浸透施設を設けた。

■CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
 ■Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
 ■「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
 ■評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される